

R016.2
0.73

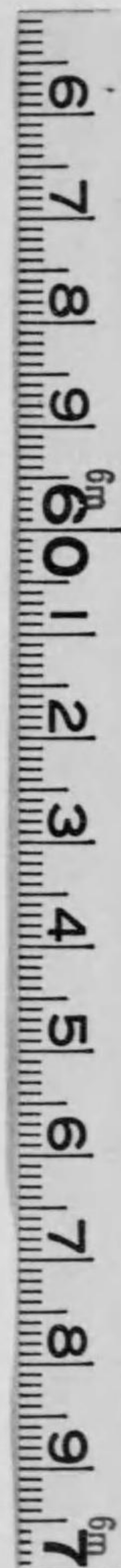
十五年十一月

事故本

欠頁 p47~54
異付, 裏表紙

(1998. 3. 23)

大阪市立圖書館一覽



始



278-109

R
016.2
0.73



目次

第一	名稱及位置	一頁
第二	沿革	二頁
第三	設備	五頁
第四	藏書	七頁
第五	分類	二〇頁
第六	目錄	二五頁
第七	閱覽狀況	三〇頁
第八	巡回文庫	三三頁
第九	附帶事業	三五頁
第十	經費	三九頁
第十一	館則	四四頁

大正
15. 11. 5
寄贈

リ
原
寄
贈
本

大阪市立圖書館一覽

第一 名稱及位置

本市立圖書館は主として市内に散在せる小公園と聯絡を保ちて設立せるものにして其の名稱及位置左の如し



- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 清水谷圖書館 | 東區清水谷西ノ町 <small>(清水谷公園隣接地)</small> |
| 西野田圖書館 | 此花區西野田玉川町 <small>(西野田公園隣接地)</small> |
| 阿波座圖書館 | 西區阿波座二番町 <small>(阿波座公園隣接地)</small> |
| 御藏跡圖書館 | 南區御藏跡町 <small>(御藏跡公園隣接地)</small> |
| 今宮圖書館 | 西成區花園町 |
| 城東圖書館 | 東成區鳴野町 |

清水谷圖書館は上本町二丁目停留場より東へ約一町半、西野田圖書館は下福島三丁目停留場より東北約二丁、阿波座圖書館は太郎助橋停留場より西南約三丁

御藏跡圖書館は日本橋筋三丁目停留場より東へ約二町、今宮圖書館は南海線荻の茶屋停留場より西南約三町、城東圖書館は城東線京橋驛より東南約十町の處にあり

第二沿革

大正七年五月二十五日開會の大阪市會に於て市會議員鎌田長七氏外十名より通俗圖書館設置の建議案を提出し即日可決す

通俗圖書館設置ノ建議

社會教育ノ缺陷ヲ補ハシガ爲メ市内各小公園ト聯絡ヲ取り通俗圖書館ヲ設置シ體育ノ振興ト相待テ健全ナル知徳ヲ涵養スルノ必要アリト認ム依テ速ニ之ガ計畫ヲ樹テ本會ニ提案セラレシコトヲ望ム

理由

本市ハ曩キニ御大典記念事業トシテ小公園設置ノ議ヲ決シ之ニ運動場ヲ附設シ以テ市民體育奨励ノ舉ニ出テタリ如斯歴史アル小公園ヲ利用シテ通俗圖書館ヲ設ケ一般公衆ニ對シ續書ノ觀念ヲ助長セバ其ノ効果甚大ナリト信ズ抑モ都市ノ堅實ナル發達

ハ其ノ根底ヲ市民ノ強健ナル身體ト健全ナル智徳トニ待タザルベカラズ而シテ通俗圖書館ノ設置ハ即チ學校教育ノ効果ト相待ツテ市民ノ人格ヲ向上セシメ日新ノ知能ヲ増進セシムル所以ナリ其ノ設置ノ緊切ナル更ニ言テ須タズ況ンヤ近時青年ノ氣風動モスレバ時流ニ汚毒セラレ志操堅實ナラズ目前ノ利得ニ憧憬スルニアラズンバ徒ニ逸樂ヲ念ヒ往々一生ノ進路ヲ誤ラントスルモノアルニ於テオヤ蓋シ青年ノ懦弱ハ社會一般ノ風潮ニ起因スベシト雖モ又一面ニ於テ學校ノ外更ニ讀書修養ノ機關ニ缺クル所アルニ由ラズンバアラズ歐米先進國ニ於テ都市ノ改善ニハ必ズ念チ風教ノ事ニ致シ通俗圖書館ノ如キ致ル所ニ之ヲ設置シ殊ニ公園ヲ有スル所必ズ圖書館ヲ設ケ之レガ爲メニ多額ノ費用ヲ投ズルガ如キ固ヨリ偶然ニアラサルナリ且ツ夫レ本市輒近ノ發達ハ帝都ト共ニ益々重キテ内外ニ致セリ隨テ本市將來ノ改善計畫ハ其ノ關スル所固ヨリ廣汎ナルベシト雖モ此ノ緊切必要ナル圖書館が僅ニ中之島ノ一ヶ所ニ見ル如キハ寧ろ之ヲ本市ノ耻辱ナリト斷セザルヲ得ズ理事者深ク風教ノ大切ナルニ念チ及ボシ小公園ノ設置ニ加フルニ通俗圖書館ノ設備ヲ以テ市民保健ノ上進ト相待ツテ健全ナル知徳修養ノ機關ヲ完備スルノ企劃ヲ遂行セラルベシ

右及建議候也

大正七年五月二十五日

第二 沿革

大阪市會議長 山口房五郎

大阪市長 池上四郎殿

右提出候也

大正八年二月二十七日理事者より大正八、九兩年度繼續事業として通俗圖書館創設の議案を提出し同年三月二十九日の市會に於て原案の通り可決確定せり、之れ市立圖書館設立の端緒にして爾來用地の買收建物の工事に着手し大正九年一月二十三日大阪府知事より設立の認可あり市役所内に事務所を設け圖書の購入を始とし開館に關する一切の事務を處理し館舎の竣工と共に左記の通り開館を見るに至れり

一大正十年六月二十日 阿波座、西野田兩圖書館開館

一大正十年十月一日 清水谷、御藏跡兩圖書館開館

大正十四年四月大阪西域擴張と共に從來今宮町に於て經營し來れる町立圖書館を引繼ぎ尋で大正十五年六月曾て城東村が 皇太子殿下御成婚記念として建設せし不燃質建物を寄附の申出ありたるを以て市は之を收受し市會の協賛を経て城東圖書館として之を使用することとなり府知事に設立認可を申請し全年九月

六日之が指令に接したるを以て直に開館準備を整へ十一月一日一般公衆の閲覽を開始せり

第三 設備



清水谷圖書館

通俗圖書館は其の性質上之を市内各方面の要所に分置して其の運用機能を活動せしめ効果を廣く普及せしむることを主眼とせざるべからず而して閱覽者の大多數は圖書館所在地附近の住民なるが故に其の需要を參酌して適當なる設備を施すの要あり、從て其の規模は

人口十萬に對して一館を設くるの程度とし最初より之に相應したる計畫を立て逐次増設して所期の目的を達成せんとするものなるが現在六館の敷地並に建坪を擧ぐれば左の如し

館名	敷地坪數	建坪	坪	建築
清水谷圖書館	八七、七	四〇、〇〇	木造三階建	
西野町圖書館	一一〇、五	五〇、三	木造二階建	
阿波座圖書館	八五、六	五〇、三	木造二階建	
御藏跡圖書館	一〇〇、七	五〇、六	木造二階建	
今宮圖書館	七九、〇〇	三三、五	木造平家建	
城東圖書館	一九、五	三三、三	鐵筋二階建	

各館とも歐米に於ける圖書館中簡易圖書館の構造に倣ひ今宮圖書館以外の五館は階上に書庫、出納所、一般閲覧室を設け階下に兒童閲覧室、婦人閲覧室、新聞閲覧所、事務室、使丁室、等を置く。今其の主なるものの廣さを擧ぐれば

館名	書庫	一般閲覧室	兒童閲覧室	婦人閲覧室	事務室
清水谷圖書館	七、五〇	一九、三七	九、三六	五、二二	一四、七九

館名	書庫	一般閲覧室	兒童閲覧室	婦人閲覧室	事務室
西野田圖書館	一一、二七	二八、八二	九、八二	三、九	八、九四
阿波座圖書館	一一、七三	一八、八二	九、八二	三、九	八、九四
御藏跡圖書館	九、四〇	二七、二四	九、五〇	四、三六	八、八〇
今宮圖書館	三、〇〇	三三、〇〇	六、〇〇	—	三、三五
城東圖書館	七、七九	二八、八〇	一九、〇〇	三、五〇	六、二三

清水谷西野田阿波座御藏跡四館の創設費は合計拾貳萬貳千參百四拾九圓にして内用地費參萬五百六拾圓を支出せり
 以上は本市に於ける圖書館設置の現状なるが時代の趨勢に伴ふ圖書館の必要の上より、打算する時は差し當りの施設として更に十五の通俗圖書館を増し既設の者と合して之を統一聯絡し其の機能を發揮せん爲め中央圖書館新設の急務を認め當事者は之が實現に努力しつゝあり

第四 藏書

藤書は人口十に對し一冊の割合に備ふる程度を以て人口十萬を標準として一館を設立せる性質上一萬冊宛を備ふべき計畫の下に創立の際三千冊を購入し爾後年々増加を圖りつゝあり

圖書の選擇に就きては通俗圖書館の使命たる良書の選擇者を以て任じ蒐集保存



西野田圖書館

を後にし藏書の全部を活用せしむることを原則とし全然需要と必要とを本位に選擇し需要稀なる圖書の要求に應ずること能はざるも敢て耻とせず寧ろ藏書に對する需要少きを以て耻とする方針の下に主として新刊圖書を購入し其の全部の活用を期することを旨とせり

勿論參考閱覽用として各種辭書類、職員録、年鑑、紳士録其他の參考書並に特所在地住民の多數に必要な専門的圖書及び有益なる雜誌を備ふることを怠らざると共に各館に同一の圖書を備ふることは成るべく之を避けて交換移動等

運用其の宜しきを得るやう注意を拂ひ居れり、而して最近に於ける各館の藏書數を擧ぐれば

種別	清水谷	西野田	阿波座	御藏跡	今宮	城東	合計
總記	三八五	一九五	二〇八	一九〇	二一八	一三二	一、二七
宗教哲學	四一九	三六	三五	三七〇	二六二	三九六	二、二〇八
教育	二二三	一七	一四	一八〇	一九	一六四	一、〇一六
文學語學	一、四九九	九七三	一、〇〇九	一、一〇一	一、〇三九	一、一〇一	六、五九二
歷史傳記	四六二	三六四	三六一	四三〇	三三六	三三三	二、二六六
地誌風俗	六五〇	五二七	五〇七	五七二	三七二	四四九	三、〇六七
政治法律經濟	三八一	三三	三三六	三三二	二二	二八三	一、八六五
社會統計家政	一一九	一五三	一四	一八〇	六九	一三三	七七七
理學數學醫學	二二	二〇三	二七四	二五九	一四	二五七	一、三五六
工業海事兵事	二五九	一九三	二〇三	二二五	二八	一六九	一、一八七
產業交通通信							
美術諸藝競技							

兒童圖書	六六	七七	八六五	六八三	五八八	二九二	三、七六〇
合計	五、二七四	四、二〇〇	四、四二六	四、五二一	三、四三六	三、五九六	二五、三三三

第五分類

總記

- 〇〇〇 總記
- 〇一〇 書目
- 〇二一 圖書館目錄
- 〇三三 特種目錄
- 〇三三 書史·出版史
- 〇四四 解題
- 〇一〇 事彙
- 〇二二 類書
- 〇三三 年鑑
- 〇三三 故事·起原

〇四四 名數

- 〇四四 名數
- 〇五五 索引
- 〇三〇 叢書·全集
- 〇三一 叢書
- 〇三一 全集
- 〇四〇 隨筆·雜書
- 〇五〇 演說集·講演集
- 〇六〇 雜誌·新聞
- 〇六一 各種雜誌
- 〇六一 各地新聞
- 〇七〇 貴重書

〇八〇 鄉土誌料

- 〇八一 宗教·哲學
- 〇八二 教育
- 〇八三 文學·語學
- 〇八四 歷史·傳記·地誌·風俗
- 〇八五 法政·經濟·社會·統計
- 〇八六 理學·醫學
- 〇八七 工學·海軍·兵事
- 〇八八 產業·交通·通信
- 〇八九 美術·娛樂·競技
- 〇九〇 兒童圖書
- 〇九一 修身·宗教
- 〇九二 讀本·作文
- 〇九三 抄·伽·噺·童話劇
- 〇九四 歷史·通理
- 〇九五 算術·理科
- 〇九六 圖書·習字·手工
- 〇九七 唱歌·童謠

完數哲學

- 〇九六 体操·遊戲
- 〇九六 實業
- 100 宗教
- 101 宗教史
- 102 宗教學
- 103 神話
- 109 論說·雜書
- 110 神道
- 111 史傳
- 112 神宮·神社
- 113 祝詞·祓·祭文
- 114 神職·祭典
- 115 儀式·忌穢
- 116 教化·傳道
- 117 諸教派
- 119 論說·雜書

三〇佛 教

- 三二 史 傳
- 三三 寺 院
- 三四 經典·語錄·戒規
- 三五 僧侶·佛事·儀式
- 三六 布教·說教
- 三七 佛 像
- 三八 諸宗派
- 三九 論說·雜書
- 四〇 基督教
- 四一 史 傳
- 四二 教 會
- 四三 聖書·讚美歌·祈禱書
- 四四 牧師·儀式
- 四五 傳道·說教
- 四六 諸教派
- 四七 論說·雜書
- 四八 其他諸宗教

二四 史 傳

- 二四 經 典
- 二五 僧侶·布教師
- 二六 傳道·說教
- 二七 儀式·葬儀
- 二八 論說·雜書
- 二九 哲 學
- 三〇 事 業
- 三一 叢書·全集
- 三二 哲學史
- 三三 論說·雜書
- 三四 論理學
- 三五 心理學
- 三六 實驗心理·比較心理
- 三七 變態心理·精神分析學
- 三八 心靈學
- 三九 妖怪學·迷信·禁厭
- 四〇 性相·相骨·形貌學

一八〇 倫理學

- 一八一 催眠術·透視術
- 一八二 記憶術
- 一八三 幻 夢
- 一八四 論說·雜書
- 一八五 倫理學
- 一八六 史 傳
- 一八七 勅語·詔書
- 一八八 國民道德·修身
- 一八九 修養·教訓·事蹟
- 一九〇 武士道·報德教
- 一九一 心學·道話
- 一九二 婦女訓
- 一九三 禮式·作法·談話及社交術
- 一九四 論說·雜書
- 一九五 支那哲學
- 一九六 支那哲學史
- 一九七 經 書
- 一九八 儒書儒教

教 育

- 二〇〇 教 育
- 二〇一 事 業
- 二〇二 叢書·全集
- 二〇三 教育史
- 二〇四 制度·法規
- 二〇五 狀況·報告
- 二〇六 統計·年鑑
- 二〇七 學校案內·學生生活
- 二〇八 入學試驗及問題集
- 二〇九 論說·雜書
- 二一〇 教育學

- 二二 教育心理學
- 二三 兒童研究
- 二四 青年研究
- 二五 實地教育
- 二六 管理訓練
- 二七 教授・教授法
- 二八 各科教授法
- 二九 學習法
- 三〇 讀本・教科書・教具
- 三一 童話及話方研究
- 三二 學校團・運動場
- 三三 校外教授・野外學校
- 三四 學校行事
- 三五 家庭及普通教育
- 三六 家庭教育
- 三七 幼稚園
- 三八 託兒所
- 三九 小學校

- 四〇 中學校
- 四一 高等教育
- 四二 高等學校
- 四三 大學
- 四四 師範教育
- 四五 師範學校
- 四六 高等師範學校
- 四七 教員養成所
- 四八 教員
- 四九 檢定試驗
- 五〇 專門及特殊教育
- 五一 專門學校
- 五二 實業學校
- 五三 補習學校
- 五四 公民教育
- 五五 盲啞及聾學校
- 五六 異常兒童教育
- 五七 宗教教育・日曜學校

二九 貧民教育其他

- 二七〇 女子教育
- 二七一 女子研究
- 二七二 高等女學校
- 二七三 女子專門學校
- 二七四 技藝學校
- 二八〇 學校衛生体育
- 二九〇 社會教育
- 二九一 圖書館
- 二九二 博物館
- 二九三 諸教化團體
- 二九四 講座・成人教育
- 二九五 少年團・青年團・婦人會
- 二九六 讀書法・自修法
- 二九七 講義錄
- 二九八 論說・雜書

三〇〇 文學

- 三〇一 事 彙
- 三〇二 叢書・全集
- 三〇三 史 傳
- 三〇四 合集・雜集
- 三〇五 美辭學・作文法
- 三〇六 演說法
- 三〇七 論說・批評
- 三〇八 拔萃・警句・格言・俚諺
- 三〇九 幼年文學
- 三一〇 日本文學
- 三一 史 傳
- 三二 合集・雜集
- 三三 國 文
- 三三一 文集讀本
- 三三二 國文評釋
- 三三三 中古文(藤原時代)
- 三三四 近古文(鎌倉室町時代)

文學語學

第五分類

- 三三五 近世文(御川時代)
- 三三六 今代文(明治以後)
- 三三七 日記
- 三三八 小品文
- 三四 作文用書
- 三五 和歌・連歌
- 三五・一 史 傳
- 三五・二 歌話・作法
- 三五・三 選集
- 三五・四 家集
- 三五・五 雜集
- 三五・六 新派和歌集
- 三五・九 連歌
- 三六 俳諧・新詩
- 三六・一 史 傳
- 三六・二 俳話・作法
- 三六・三 明治前句集
- 三六・五 俳文紀行・書簡

- 三六七 新詩
- 三六八 詩論・作詩法
- 三六九 新詩集
- 三七 琵琶歌・民謠
- 三八 謠曲・淨瑠璃
- 三九 滑稽文學
- 三九・一 合集
- 三九・二 川柳
- 三九・三 狂歌・狂句
- 三九・四 狂詩
- 三九・五 戲文
- 三九・六 笑話
- 三九・七 諷刺・諧謔
- 三九・九 雜書
- 三〇 支那文學
- 三二 史 傳
- 三三 合集・雜集
- 三三 漢文

- 三四 詩學・詩話・詩集
- 三五 金石文
- 三六 時文・尺牘
- 三七 傳 奇
- 三八 雜 書
- 三九 東洋諸國文學
- 三〇 歐米文學
- 三一 叢 書
- 三二 史 傳
- 三三 古典文學
- 三四 英米文學
- 三五 獨文學
- 三六 佛文學
- 三七 露文學
- 三八 其他西洋文學
- 三九 論說・雜書
- 四〇 小說脚本
- 四一 明治前小說

第五分類

- 三四 詩學・詩話・詩集
- 三五 金石文
- 三六 時文・尺牘
- 三七 傳 奇
- 三八 雜 書
- 三九 東洋諸國文學
- 三〇 歐米文學
- 三一 叢 書
- 三二 史 傳
- 三三 古典文學
- 三四 英米文學
- 三五 獨文學
- 三六 佛文學
- 三七 露文學
- 三八 其他西洋文學
- 三九 論說・雜書
- 四〇 小說脚本
- 四一 明治前小說

- 三四 明治後小說
- 三四 講談・落語
- 三四 翻譯小說
- 三四 支那小說
- 三四 脚 本
- 三七 翻譯脚本
- 三八 支那脚本
- 三九 傳 說
- 三〇 語 學
- 三一 言語學
- 三二 エスベラント
- 三三 速記術
- 三四 タイブライチング
- 三五 雜 書
- 三六 國 語
- 三六 辭 書
- 三六 音韻・文字
- 三六 語、源

- 三四文典
- 三五假名遣
- 三六俗語・方言
- 三七ローマ字
- 三八朝鮮語・其他領土語
- 三九支那語
- 四〇辭書
- 四一音韻・文字
- 四二英文典
- 四三英語
- 四四發音・綴字・語源
- 四五讀本・自修書
- 四六和譯法・譯解
- 四七英譯法・作文
- 四八會話
- 四九書取・習字

- 三九雜書
- 四〇諸外國語
- 四一古典語
- 四二獨逸語
- 四三佛蘭西語
- 四四露西亞語
- 四五西班牙語
- 四六印度語
- 四七其他諸外國語

歷史地誌風俗

- 四〇〇 歷史
- 四〇一 世界史
- 四〇二 文明史
- 四〇三 年表
- 四〇四 讀史地圖
- 四〇五 考古學
- 四〇六 雜書

四一〇 日本史

- 四一〇・一 文明史
- 四一〇・二 年表
- 四一〇・三 讀史地圖
- 四一〇・四 考古學
- 四一一 通史
- 四一二 太古及上古史(神代—大化改新)
- 四一三 中古史(藤原時代—平氏滅亡)
- 四一四 近古史(鎌倉幕府—桃山時代)
- 四一五 近世史(江戸時代)
- 四一六 今代史(明治以後)
- 四一七 地方史
- 四一八 新領土史
- 四一九 雜史・雜書
- 四二〇 東洋史
- 四二一 支那史
- 四二二 支那古代史
- 四二三 支那上古史

- 四二四 支那中古史
- 四二五 支那近古史
- 四二六 支那今代史
- 四二七 支那地方史
- 四二八 印度史
- 四二九 其他東洋諸國史

四三〇 西洋史

- 四三一 希臘・羅馬史
- 四三二 英國史
- 四三三 佛國史
- 四三四 獨逸史
- 四三五 伊國史
- 四三六 露國史
- 四三七 米國史
- 四三八 其他諸國史
- 四三九 雜書
- 四四〇 傳記
- 四四一 事業・人名錄

- 四二叢書·叢傳
- 四三皇室·皇族
- 四四各傳
- 四五姓氏·氏族·系譜·家傳
- 四六職員錄·武鑑
- 四七肖像
- 四八人物評論
- 四九逸話·美談
- 四〇地誌
- 四五世界地誌
- 四三世界地圖
- 四二地圖學
- 四四紀行·案内記
- 四五兩極記錄
- 四六漂流記·探險記
- 四七雜書
- 四八日本地誌
- 四九地方誌

- 四二臺灣誌
- 四三朝鮮誌
- 四四樺太誌
- 四五南滿洲誌
- 四六地圖·里程表
- 四七紀行
- 四八名勝案内記
- 四九雜書
- 四〇亞細亞地誌
- 四一地圖
- 四二名勝·紀行
- 四三支那誌
- 四四滿蒙誌
- 四五西藏誌
- 四六西比利亞及沿海洲誌
- 四七中央亞細亞誌
- 四八印度誌
- 四九其他亞細亞諸國誌

- 四〇歐米其他諸國地誌
- 四一地圖·渡航案内
- 四二名勝紀行
- 四三歐羅巴誌
- 四四北亞米利加誌
- 四五中央亞米利加誌
- 四六南亞米利加誌
- 四七亞弗利加誌
- 四八濠洲·南洋諸國誌
- 四九雜書
- 四〇風俗
- 四一風俗史
- 四二日本風俗·年中行事
- 四三新領土風俗
- 四四支那風俗
- 四五西洋風俗
- 四六世界各地風俗
- 四七服飾·流行·美容術

- 四八遊廓·遊女
- 四九雜書
- 政治法律經濟
- 社會統計家政
- 五〇政治
- 五一政治史·政治史
- 五二政治學
- 五三國家學
- 五四國法學
- 五五國體
- 五六外交·條約
- 五七政黨
- 五八論說·雜書
- 五〇憲法
- 五一憲法史
- 五二帝國憲法
- 五三外國憲法

- 五四 皇室典範
- 五五 議會
- 五六 選舉法·選舉
- 五九 論說·雜書
- 五〇 行政
- 五一 行政法
- 五二 政府·官吏
- 五三 中央行政
- 五四 地方行政
- 五五 新領土行政
- 五六 地方振興·行政資料
- 五七 行政裁判
- 五九 論說·雜書
- 五〇 法律
- 五〇·一 事覺·叢書
- 五〇·二 法令
- 五〇·三 判決例
- 五〇·四 文官·判檢事·辯護士·警察官試驗

- 五四·八 和議法
- 五四·九 雜書
- 五五 刑法
- 五五·一 總論
- 五五·二 各論
- 五五·三 刑法施行法
- 五五·四 刑事學
- 五五·五 警察犯處罰令
- 五五·九 雜書
- 五六 訴訟法
- 五六·一 民事訴訟法
- 五六·二 刑事訴訟法
- 五六·三 競賣·強制執行
- 五六·四 借地借家調停法
- 五六·九 雜書
- 五七 裁判所構成法
- 五七·一 陪審法
- 五七·二 少年法

- 五二 法制史
- 五二 法理學
- 五三 民法
- 五三·一 總則
- 五三·二 物權法
- 五三·三 債權法
- 五三·四 親族·相續法
- 五三·五 登記法
- 五三·六 借地借家法
- 五三·九 雜書
- 五四 商法
- 五四·一 總則
- 五四·二 社會法
- 五四·三 商行為法
- 五四·四 手形法
- 五四·五 保險法
- 五四·六 海商法
- 五四·七 破產法

- 五七·九 雜書
- 五八 國際法
- 五八·一 國際公法
- 五八·二 國際私法
- 五八·三 國際聯盟·國際會議
- 五八·九 雜書
- 五九 論說·雜書
- 五〇 古代法制
- 五〇·一 公家制度
- 五〇·二 武家制度
- 五〇·三 藩政
- 五〇·四 官職
- 五〇·五 儀式典例
- 五〇·六 有職故實
- 五〇·七 歐洲古代法制·羅馬法
- 五〇·八 東洋古代法制
- 五〇·九 論說·雜書
- 五〇 經濟

- 五五二 史傳
- 五五三 土地・人口
- 五五四 企業・生産
- 五五五 資本・利子・賃金
- 五五六 貨幣・金融・爲替・物價・恐慌
- 五五七 組合・トラスト・シンデケート
- 五五八 保險・貯金・無盡講
- 五五九 拓殖・移民
- 五六〇 論說・雜書
- 五六〇 財政
- 五六一 史傳
- 五六二 租稅・諸稅
- 五六三 國債・地方債
- 五六四 官業・專賣
- 五六五 官有財產
- 五六六 會計法
- 五六七 豫算・決算
- 五六八 地方財政

- 五六九 論說・雜書
- 五六〇 社會
- 五六一 國民性・民族性
- 五六二 文化・思想問題
- 五六三 社會問題・社會主義・社會政策
- 五六四 生活・職業
- 五六五 勞働
- 五六六 家族及男女問題
- 五六七 人種問題・人種改良
- 五六八 兒童保護・感化・慈善・救濟・犯罪
- 五六九 論說・雜書
- 五六〇 統計
- 五六一 國勢及市勢調查
- 五六二 日本諸統計
- 五六三 中央諸統計
- 五六四 地方諸統計
- 五六五 新領土諸統計
- 五六六 外國諸統計

五九九 雜書

- 五九〇 家政
- 五九一 家事經濟
- 五九二 家庭科學
- 五九三 衣服・洗濯・染色
- 五九四 裁縫・手藝
- 五九五 食物・料理
- 五九六 住居・家庭衛生
- 五九七 育兒・玩具
- 五九八 雜書

理學數學醫學

- 六〇〇 理學
- 六〇一 事業叢書
- 六〇二 史傳
- 六〇九 雜書
- 六一〇 數學
- 六一一 算術

- 六三二 代數
- 六三三 變何
- 六三四 三角
- 六三五 解析幾何
- 六三六 微積分
- 六三七 對數表
- 六三八 和漢算法・珠算
- 六三九 雜書

- 六四〇 物理學
- 六四一 力學・物性
- 六四二 熱學
- 六四三 音響學
- 六四四 光學
- 六四五 電磁氣學
- 六四六 原子論・電子論
- 六四七 相對性原理
- 六四八 雜書
- 六四九 化學

- 三二 無機化學
- 三三 有機化學
- 三四 分析化學
- 三五 電氣化學
- 三六 物理化學
- 三九 雜書

六四〇 天文學・地文學

- 六四一 天文學
- 六四二 曆學・曆書
- 六四三 地文學
- 六四四 氣象學・水害
- 六四五 地震學・震災
- 六四九 雜書

六五〇 博物學

- 六五一 生物學・兩性論
- 六五二 進化論・原生論・遺傳學
- 六五三 人類學・人種學
- 六五四 動物學

- 六五五 植物學・本草學
- 六五六 礦物學
- 六五七 地質學・岩石學
- 六五八 古生物・化石學
- 六五九 雜書

六一 醫學

- 六一 生理・解剖・組織學
- 六二 病理學・診斷學
- 六三 細菌學・顯微鏡學
- 六四 藥學・調劑・賣藥
- 六五 血清學・免疫法
- 六六 看護學・繃帶術
- 六七 和漢古方
- 六八 法醫學・醫化學
- 六九 獸醫學
- 七〇 醫學各科
- 七一 內科學
- 七二 精神病學

- 六三 外科學
- 六四 皮花科學・傳染病學
- 六五 眼科學
- 六六 耳鼻咽喉科學
- 六七 齒科學
- 六八 產婦人科學・產婆學
- 六九 小兒科學

六八〇 衛生

- 六八一 衛生學
- 六八二 衛生試驗
- 六八三 公衆衛生
- 六八四 豫防消毒
- 六八五 強壯法・健康法・長壽法
- 六八六 養生法・食養法
- 六八七 冷水法・呼吸法
- 六八八 安眠法・健腦法
- 六八九 雜書

六九〇 治療法

- 六九一 應急手當法
- 六九二 轉地療法・湯治
- 六九三 食餌療法
- 六九四 精神療法
- 六九五 電磁氣療法
- 六九六 鍼灸術・按摩・マチサージ
- 六九九 雜書

工學海事兵事

- 七〇〇 工學
- 七〇一 工業數學・工業力學
- 七〇二 製圖・用器畫法
- 七〇三 構造強弱
- 七〇四 材料及施工法
- 七〇五 鐵筋コンクリート
- 七〇九 雜書
- 七一〇 土木工學
- 七一 道路・橋梁

- 七二 隧道·運河
- 七三 鐵道
- 七四 治水·水理
- 七五 水力工學
- 七六 衛生工學
- 七七 都市工學·都市計畫
- 七八 測量學
- 七九 雜書
- 七〇 建築學
- 七一 建築構造
- 七二 設計·仕様
- 七三 建築圖
- 七四 室內設備
- 七五 附屬設備
- 七六 裝飾
- 七七 古代建築
- 七八 雜書
- 七〇 機械工學

- 七二 蒸汽機關·機關車
- 七三 發動機
- 七四 工場機械·動力
- 七五 水力機械
- 七六 航空機·航空術
- 七七 自動車·自轉車
- 七八 起重機·昇降機
- 七九 諸機械·器具
- 七〇 雜書
- 七〇 電氣工學
- 七一 發電·變電
- 七二 水力電氣機械
- 七三 電氣機械
- 七四 電氣器具
- 七五 蓄電池
- 七六 電信·電話
- 七七 電燈·電熱
- 七八 電氣鐵道·電車

- 七九 雜書
- 七〇 鑛山學
- 七一 探鑛
- 七二 冶金·試金
- 七三 金銀銅
- 七四 鐵鋼
- 七五 石炭·石油
- 七六 各地鑛山
- 七九 雜書
- 七〇 釀造學
- 七一 造船學
- 七二 造船材料
- 七三 船舶構造
- 七四 船舶用機關
- 七五 船舶渠
- 七六 離書
- 七〇 海事
- 七一 港灣·築港

- 七二 水路·潮流·航路標識·燈臺
- 七三 航海
- 七四 海圖·航路案内
- 七五 潛水術
- 七六 船名錄·信號·旗章
- 七七 海員審判
- 七八 海員救濟
- 七九 雜書
- 七〇 兵事
- 七一 兵制·軍制
- 七二 戰史·戰記
- 七三 陸軍·航空隊
- 七四 海軍·艦艇
- 七五 兵器·城砦
- 七六 戰術·兵法
- 七七 赤十字
- 七九 雜書

產業交通通信

- 八〇〇 產業
- 八〇一 史傳
- 八〇二 產業地理・物產
- 八〇三 各地產業狀況
- 八〇四 發明・特許・新案・商標
- 八〇五 度量衡
- 八〇六 博覽會・共進會
- 八〇七 實業訓
- 八〇八 事務法・能率增進
- 八〇九 雜書
- 八一〇 農業
- 八一 農業經濟・農政
- 八二 農業理化・氣象
- 八三 土壤・肥料・耕種栽培
- 八四 農具・農產製造
- 八五 作物病害・益鳥虫
- 八六 茶業・珈琲・煙草

- 八七 蠶業・栽桑
- 八八 牧畜・養禽・養蜂
- 八九 雜書
- 八二〇 園藝・林業
- 八二一 蔬菜
- 八二二 果樹・果物
- 八二三 花卉・盆栽
- 八二四 庭園・溫室
- 八二五 公園・街路樹
- 八二六 林政・造林・樹苗
- 八二七 木竹材・林產物
- 八二八 各地林業
- 八二九 雜書
- 八三〇 水產・漁業
- 八三一 養殖
- 八三二 水產試驗
- 八三三 漁業
- 八三四 漁具・漁船

- 八三五 鹽業
- 八三六 其他海產業
- 八三七 水產製造
- 八三八 各地水產漁業
- 八三九 雜書

八四〇 工業

- 八四一 史傳
- 八四二 工業經濟・工業政策
- 八四三 工場法・工場管理・工場衛生
- 八四四 工業試驗及研究
- 八四五 雜書

八五〇 化學工業

- 八五一 鍍金・合金
- 八五二 化粧品・石鹼・化學品・工業藥品
- 八五三 染料・塗料・漂白・染色
- 八五四 油脂・燃料・燈火・爆藥
- 八五五 ゴム・エポナイト・セルロイド
- 八五六 模造絹糸

- 八五七 食料品
- 八五八 雜書

八六〇 機械工業

- 八六一 纖維工業
- 八六二 製紙工業
- 八六三 金屬工業
- 八六四 製作工業
- 八六五 皮革
- 八六六 印刷・製版
- 八六七 製本
- 八六八 時計
- 八六九 雜書

八七〇 商業

- 八七一 史傳・商業地理
- 八七二 商業經濟・商業政策
- 八七三 商業經營・廣告術
- 八七四 商品・荷造
- 八七五 商業數學・簿記・會計

第五分類

- 八七 商業作文・會話・書式
- 八七 貿易・倉庫
- 八六 銀行・會社
- 八五 取引所・株式・相場
- 八四 交通・運輸
- 八二 史 傳
- 八二 交通地理
- 八三 海上運送・水運
- 八四 陸上運送・道路
- 八五 鐵 道
- 八六 空中輸送
- 八九 雜 書
- 八九〇 通 信
- 八九一 郵 便
- 八九二 電 信
- 八九三 無線電信
- 八九四 電 話
- 八九五 無線電話

- 八六 傳書鳩
- 八九 雜 書

美術諸藝競技

- 九〇 美 術
- 九一 史 傳
- 九二 美 學
- 九三 古美術・鑑定
- 九四 現代美術
- 九五 美術展覽
- 九六 美術館
- 九七 目錄・圖譜・圖錄
- 九八 篆刻・印譜・印章・花押
- 九九 雜 書
- 九〇 書 畫
- 九一 史 傳
- 九二 書 法
- 九三 書 譜

- 九四 書 法
- 九五 書 譜
- 九六 漫畫・版畫
- 九七 表 裝
- 九八 文房具
- 九九 雜 書
- 九二〇 彫刻・塑像
- 九二一 史 傳
- 九三 古彫刻
- 九三 現代彫刻
- 九四 塑 像
- 九九 雜

九三〇 圖 案

- 九三一 一般圖集
- 九三二 工藝圖案集
- 九三三 廣告圖案集
- 九四〇 工 藝
- 九四一 史 傳

第五分類

- 九四二 蒔繪・漆器
- 九四三 陶磁器
- 九四四 織物工藝
- 九四五 金屬工藝・鑄金
- 九四六 硝子竹木其他工藝
- 九四九 雜
- 九五〇 寫 真
- 九五二 寫真術
- 九五三 寫真器械及藥品
- 九五五 寫真帖
- 九五五 活動寫真
- 九五五 幻 燈

九六〇 音 樂

- 九六一 史 傳
- 九六二 音樂理論
- 九六三 西洋樂譜
- 九六四 日本歌曲
- 九六五 聲樂・唱歌

- 九六六 日本及支那樂器
- 九六七 西洋樂器
- 九六八 蓄音機
- 九六九 雜
- 九七〇 諸 藝
- 九七一 史 傳
- 九七二 演劇・野外劇
- 九七三 映畫劇
- 九七四 歌劇・舞蹈
- 九七五 舞 踊
- 九七六 古樂・能・狂言
- 九七七 雜舞曲
- 九七八 俳優・義太夫
- 九七九 雜
- 九八〇 娛 樂
- 九八一 花道・茶道・盆石
- 九八二 狩獵・釣魚
- 九八三 愛玩動物飼育

- 九八四 圍碁・聯珠・將碁
- 九八五 玉 突
- 九八六 牌 戲
- 九八七 雙六・福引・考物
- 九八八 奇 術
- 九八九 雜
- 九九〇 競 技
- 九九一 トラック競技
- 九九二 フィールド競技
- 九九三 野球・庭球・其他球戲
- 九九四 スケート・スキー
- 九九五 水上競技・水泳術
- 九九六 弓術・馬術・競馬
- 九九七 柔道・劍道
- 九九八 相撲・拳闘
- 九九九 雜 書

第六目 錄

一、事務用目録

イ、書名カード

(各館備付の外に市立圖書館全部のものを清水谷圖書館に備ふ)

ロ、分類カード

ハ、函架目録

二、閱覽用目録

イ、分類カード

ロ、印刷目録

ハ、揭示目録

(時局に關する必讀書、辭書類、家庭用書其他特種圖書の目録を館内に掲示す)

第七 閱覽狀況



阿波座圖書館

とする傾向あるに因るものにして讀書趣味の涵養と風尙の向上に資すること決して尠しとせず、今最近に於ける一ヶ月の閱覽人員を擧ぐれば

館名	一般	婦人	兒童	合計	一日平均
清水谷	七、二八五	二、三二一	三、二八四	一〇、七〇〇	三六八、六六

即ち清水谷外四館の一ヶ月の閱覽總人員五萬六千六百六拾人にして一日の閱覽者は平均壹千九百六拾人なり(城東圖書館は開館直後なるを以て之を省く以下また同じ)而して之を職業別に依り調査するに

種別	清水谷	西野田	阿波座	御藏跡	今宮	合計
西野田	八、五九五	二、八三三	七、九四〇	一六、八二八	五七九、九三	
阿波座	七、八五六	二、六五五	二、九三四	一一、〇五五	三八一、二〇	
御藏跡	七、八九三	二、二〇〇	五、〇五七	一三、一六〇	四五三、七九	
今宮	二、八三七	一、五七〇	一、五二〇	四、四二七	一七七、〇八	
合計	三〇、三六六	一、〇五九	二〇、七五五	五、一六〇	一、九六〇、六六	

種別	清水谷	西野田	阿波座	御藏跡	今宮	合計	百分比
學生	三、一六八	四、二四四	二、五七五	三、二六六	一、三三五	一四、二五八	二五、三七
官公吏	二、五七	一、六六	七	一、七七	二、二二	八、五	一、四四
宗教家	三、八	三、九	二、七	六、七	四、四	二、五	三、九
藝術家							

種別	清水谷	西野田	阿波座	御藏跡	今宮	合計	百分比
商工業者	一、九五〇	二、二六〇	三、五四六	二、九九三	五四一	一、二九〇	二〇、一一
職人 備者	一四〇	五〇二	六八四	三九四	二六二	一、九八二	三、五二
雜業	三三八	三三四	六	八七	七	七七二	一、三七
不明及無職	一、二九四	一、一五〇	九四四	一、〇〇九	六三七	五、〇三四	九、一三
婦人	二二二	二八三	二六五	二二〇	七〇	一、〇五九	一、八七
兒童	三、二八四	七、九四〇	二、九三四	五、〇五七	一、五二〇	二〇、七三五	三、七九
合計	一〇、七〇〇	一六、八八八	一一、〇五五	一三、一六〇	四、四二七	五、一六〇	一〇〇、〇〇

閱覽者中實業従事者は全數の二割四分、學生は二割五分を占め、官公吏教員宗教家等は極めて少なく地方別に觀察するときには阿波座御藏跡は商工業者多くして清水谷西野田今宮は學生多し
更に如何なる種類の圖書が讀まれるか之れ亦た最近に於ける一ヶ月の閱覽冊數を示す時は

種別	清水谷	西野田	阿波座	御藏跡	今宮	合計	百分比
總記	二四六	三五二	三〇六	三二二	一〇三	一、三二九	二、三九
宗教哲學	四三	六五二	五九六	五二一	一七八	二、三六八	四、二八
教育	二九〇	二四二	一五二	一四五	六五	八九三	一、六一
文學語學	四、八〇五	四、七四二	四、二八三	四、九三五	一、八五〇	二〇、六一四	三七、九六
歷史傳記	八一	一、五七五	一、〇五九	一、二四	四四六	五、〇〇一	九、一一
地誌風俗	六六九	一、〇六七	七四二	七八九	一九三	三、四六〇	六、〇四
政治法律經濟	九八九	一、三四一	一、一九四	一、一〇四	三七八	五、〇六六	九、〇二
社會統計家政	二九七	五七三	三五	三四〇	一三一	一、六六七	二、九八
理學數學醫學	四八一	三三二	七三〇	四八五	一七四	二、二〇二	四、〇五
工業海事兵事	四八四	五八九	五七九	六三七	一五八	二、四四七	四、三五
美術諸藝競技	二、二七二	一、八七二	一、六六九	二、四五	一、三三〇	九、三六八	一八、二〇
雜誌	一一、六七六	三、三四	一一、六三二	三、七九七	四、九〇七	五四、三四五	一〇〇、〇〇
合計	一一、六七六	三、三四	一一、六三二	三、七九七	四、九〇七	五四、三四五	一〇〇、〇〇

右は兒童の閱覽せしものを省きたる統計なるが之に依るときは閱覽圖書の三割八分は文學語學に屬するものにして雜誌は之に亞ぎ歴史地誌及び理學數學稍多く教育書は最も少し、而して之を地方別により觀れば工業書の多く讀まる、は西野田、御藏跡にして阿波座は商業書の閱覽多く清水谷は文學語學、今宮は歴史地誌並に雜誌の閱覽比較的多し

次に創立以來の閱覽狀況を表示すれば左の如くにして年を逐ふて閱覽者を増加すると共に、卑近なる圖書より漸次實用的學術的の圖書を閱覽する傾向を生じ市民の圖書館利用が向上發達しつゝ、あるを明瞭に看取するに足る

創立以來 閱覽人員表

職 業	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	合 計	百分比
學 生	六二、〇三二	一二三、九七四	一三五、七六九	一三七、九六九	一四七、一〇四	六〇四、八二六	二九、七七
實業従事者	四六、六五七	九八、五六六	九五、七六八	一〇〇、四八一	一二三、四八九	四六四、九四一	二二、八九
教員 宗教家	六二八	一、三三七	一、三三八	一、六〇九	二、二一五	七、〇七	〇、三五
官公吏 軍人	三、二五八	六、〇六二	六、二五二	一七九	八、三三八	三〇、九七	一、五二

種 別	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	合 計	百分比
記者 著述家	六九	一四九	一四九	一七九	一七五	七二二	四、〇
雜 業	三、六二〇	七、〇八一	一一、七七一	一六、二四三	九、八二〇	四八、五三五	二、三九
不明及無職	一〇、八八五	二二、二三八	三五、三二二	四八、九七	四一、五六八	一五八、九三〇	七、八三
兒 童	一五六、九六六	一六、三、二八五	二八、四一六	一三一、〇三二	一三五、四五二	七二五、一四二	三五、二二
合 計	二八三、一〇五	四四〇、七三二	四四四、七四	四四三、四三六	四六九、〇六一	二〇〇一、〇三八	一〇〇、〇〇
一日平均人員	一、三三六、一〇	一、二四八、三八	一、三三、四八	一、三二五、七八	一、四九、三二	一、三三二、二二	

創立以來 閱覽圖書冊數表

種 別	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	合 計	百分比
總 記	八、二二二	二二、七六七	一一、三二二	一一、一九〇	一〇、九九五	六三、三八六	三、〇五
宗教哲學	三、四五〇	六、八三三	八、三三七	八、八八〇	一五、六七五	四三、一七五	二、〇七
教 育	九、五七九	一八、六〇〇	二〇、五〇五	二二、四八一	二〇、一三七	九二、三〇二	四、四四
文學語學	二〇八、二二五	一七五、二四五	一八五、二〇九	一九六、〇三七	一九五、四〇一	八六〇、〇一七	四二、三五

類別	一月平均	一月合計	一月平均	一月合計	一月平均	一月合計	一月平均	一月合計	一月平均	一月合計	一月平均	一月合計
歴史傳記	一八、二七	三三、〇八〇	三七、九七四	四七、九四五	四八、六四八	一八五、八六四	八、九四					
地誌風俗	一四、一五一	二三、七七一	二六、九五四	三二、五五八	三四、四九七	一三〇、九三三	六、三〇					
政治法律經濟	二〇、四三一	三四、五二九	三九、〇〇五	四六、一七〇	四八、六八四	一八八、八一〇	九、〇八					
社會統計家政	六、〇六四	九、一五二	一一、四九八	一六、〇六四	一九、五四九	六二、三三七	三、〇〇					
工學海事兵事	七、〇四〇	一三、五九九	一四、二〇三	一五、八七五	一八、〇二八	六八、七三五	三、三一					
産業交通通信	八、九六九	一五、六〇一	一八、二四二	二〇、一八五	二〇、三二一	八三、三〇七	四、〇〇					
美術諸藝競技	二、六三九	五、七〇四	五七、八三〇	六九、七九六	九五、八二二	三〇〇、七八二	一四、四六					
雜誌	二五、七八八	四〇七、八六一	四三二、〇六八	四八七、一八二	五七七、七三二	一、〇七九、六三六	一〇〇、〇〇					
合計	一、〇五四、九五	一、二七九、七八一	一、二七九、四七	一、四四五、五三	一、六〇七、二三	一、三三三、三九						

終りに館外帯出の状況を概説すれば一ヶ月の總人員壹萬壹千七拾二人にして一日平均三百八十五人を算し職業別より見れば商工業者著しく多く兒童の帯出また盛にして近來家庭の主婦にして館内閱覽を不便とするものの申込漸く増加するの傾向を呈せり

第八 巡回文庫

創立當時より巡回文庫の制度を定め市内に於ける青年團、婦人會、學校、官公衙、病院、社寺、教會、會社商店、工場、俱樂部等に對し其の団体の代表者を



御書園

定め無料にて之を貸與し廣く一般の希望者に閱覽せしむること爲し最寄の市立圖書館に申込み簡易なる手續の下に貸與を受くる方法を探り一面圖書館側よりも適當の個所を指定して借受けを勧誘し専ら普及に努めつつあり

巡回文庫の本函は携帯に便利にして且つ極めて堅牢なるものを作り之に二十冊乃至三十冊の圖書を納入し一函若くは數函を提供することとし留置期間を一ヶ月として更に新なる圖書と交換し閱覽者をして陳腐に飽かしめざるやう注意を拂ひ居れるが輒近其の需要著しく増加

し其の効果も亦益々良好に赴きつゝあり左に其の需要先の一斑を例示して参考
に供す

- | | |
|-----------|-----------|
| 市電氣局春日出宿舍 | 日本橋三丁目青年團 |
| 西消防署 | 市電氣局天王寺公舎 |
| 安治川小學校 | 旭少年義勇隊 |
| 上福島青年團 | 難波河原校 |
| 婦人クラス | 市電鶴橋宿舍 |
| 玉造婦人會 | 長谷川病院 |
| 啓發青年團柴島支部 | 玉造警察署 |
| 市電築港宿舍 | 岡田商店 |
| 岩崎特志夜學校 | 市民博物館 |
| 忠信日曜學校 | 玉造青年團 |
| 瑞穂俱樂部 | 西九條小學校 |
| 都島運輸事務所 | 芦分青年團 |

第九 附帶事業

圖書館の利用を擴充し其の運用を敏活ならしむる爲め附近住民に能く圖書館を
紹介して館の實際を知悉せしめ常に圖書館と親密を保たしむることは極めて必
要なる事柄なり、即ち居ながら閲覽者の來るを待たず進んで其の利用者を求む
る趣旨の下に附屬事業を營みつゝあり、之れ一面には圖書館を社會教育の中樞
たらしめ學校事業の施設と相待つて本市の文化に貢献するところ少からざるを
信ず、今御藏跡圖書館に於て實施せる主なるものを列擧して其の一斑の説明に
代へんとす

一、讀書會 一般有志者並に青年團員を以て組織し各地方より數名づつ委員
を選出し事務所を圖書館内に設け相携へて諸種の施設を行ひ居れり、即ち講演
會、館外文庫、會報、雄辯會等の開催によりて讀書趣味の普及に資する外會員
たるものは相互に讀書を獎勵して其の向上を企圖し切瑳して責善の工夫をなす
こととし、就中興趣相響くもの相寄りてクラスを編制し一題目一科目又は一圖

書を随意に選びて之を研究し知能の啓發徳性の涵養に力めつゝあるが一クラスは三十人以下を以て編制し既に十有三を數ふるに至れり、此の外會の幹部は圖書借覽の方法を一般に示教し會員にして館外閱覽を希望するものある時は帶出



今宮圖書館

規程に従つて其の保證を爲し讀書の指導と相待つて圖書館と各地方との聯絡を保持し圖書の運用を全からしめんことに努めつゝあり

二、婦人會 家庭に於ける主婦令嬢

圖り例會を開きて婦人問題、婦人に關する生理衛生等の研究又は産院、水源池、諸官衙、工場、寄宿舎の如き生活上必須なる場所の見學を行ひ其の他専門名士の講話を聴くこと既に五十數回を重ねたる外最近に至り會員が家庭に於て讀書し得る便宜を圖らん爲め中央委員中に圖書借覽係を設けて館外帶出に關する一

欠

終

欠